朝日新聞
DIGITAL

新国立「超VIP用ラウンジ」の予想図公開　匠の技発揮

２０１６年１０月２９日００時３２分

新国立競技場で各国首脳らが使う「ＶＶＩＰラウンジ」のイメージ図＝大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所ＪＶ作成／ＪＳＣ提供

２０２０年東京五輪・パラリンピックの主会場になる新国立競技場建設で、事業主体の日本スポーツ振興センター（ＪＳＣ）が２８日、ＶＩＰより格が高い最上級の要人「ＶＶＩＰ」専用ラウンジなどの新たなイメージ図を公開した。

ＶＶＩＰラウンジは国家元首らの利用を想定しており、板をずらしながら重ね張りする「大和張り」の船底天井で、日本らしさをアピールしている。設計を統括する建築家の隈研吾氏は記者会見で「日本の匠（たくみ）の技を見せたい」と述べた。

工事を担当する大成建設などの共同事業体は、新国立競技場全体の年間の維持管理費を概算で２４億円と見込む。隈氏は「木材に直接雨がかからないなど、メンテナンスを最小化する工夫をした」と語った。１１月中に実施設計をまとめ、１２月に工事が始まる予定。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.